

◆ 大学の実践例 ◆

単発講座（ゲストスピーチ）

〈科目名〉	「生活と経済」
〈テーマ〉	「消費者市民社会に向けて～消費生活相談の現場から～」
〈授業のねらい〉	消費者の権利と責任について考え、自立した消費者として行動できるようにする
〈教材・資料〉	・ パワーポイント ・ レジューメ ・ 啓発リーフレット「あま～い誘いにご用心！」

◆授業内容（1コマ・90分授業）

	時間	項目	内容
導入	10分	消費生活センターについて 講座の流れ	
展開 ①	35分	消費者市民社会	・ 消費者市民社会とは？ ・ 消費者教育 ・ 消費者の権利と責任 ・ 消費者関連の法律 ・ 消費生活センターの役割
展開 ②	25分	消費生活相談の現状	・ 相談状況 ・ 高齢者をめぐるトラブルの現状 ・ インターネット関連のトラブル ・ 若い世代のトラブル
展開 ③	10分	クーリングオフ制度と対処法	・ クーリングオフ制度 ・ 特定商取引法、消費者契約法の活用
まとめ	10分	相談窓口 アンケート	

学生の感想から

- ・ 自分が被害にあったときセンターに連絡、相談することが他の消費者にも役立つという話が印象的だった。
- ・ 消費者には権利だけでなく責任もあって、批判的に商品を見たり、環境に配慮したりする責任があることを初めて知り、とても大切なことだと感じた。
- ・ 高齢者の不安3Kの一つに「孤独」があり、孤独でなかったら被害が防げることもあるかもしれないと気づいた。